

## 靈驗記にみられる地藏信仰の一考察

研究生 和井田 崇弘

地藏菩薩の靈驗記の刊行が、日本において最も隆盛を極めたのが江戸時代である。貞享元年（一六八四）に刊行された『十四卷本地蔵菩薩靈驗記』の刊行以来、約百三十年あまりの間に、数多くの地藏菩薩靈驗記が刊行されてきたのである。

本発表は、地藏菩薩の靈驗記における信仰形態に注目し考察を試みたものである。地藏菩薩への信仰形態の傾向をより明確化するため、下記の方法を試みた。

◎同時期に成立した地藏菩薩と観音菩薩の靈驗譚、双方の対比を試みた。ここでは、曹洞宗の僧侶であった玄端（?～一七五〇）が編纂し、享保三年（一七一八）に刊行された『本朝諸仏靈応記』を取り上げ、地藏菩薩と観音菩薩それぞれの靈驗譚を分析し考察を試みた。これは、地藏菩薩の靈驗譚の特徴をより詳細に捉えるためである。

◎各靈驗譚の話を内容別に、①奇瑞、②功德、③延命、④病難、⑤厄除、⑥盜難、⑦刑罰、の七項目に分類し、各靈驗譚を分析することを試みた。これは、各靈驗譚の傾向を整理し、地藏菩薩への信仰形態の特徴をより捉えやすくするためである。

この『本朝諸仏靈応記』には、地藏菩薩の靈驗譚が九話、観音菩薩の靈驗譚が十九話、収録されている。それぞれの菩薩の靈驗譚を分類し考察を試みた結果、下記の傾向が見出された。

◎奇瑞の話は、観音菩薩の靈驗譚が圧倒的に多い。  
◎功德の話は、地藏菩薩の靈驗譚が圧倒的に多い。  
◎病難、刑罰の話は、地藏菩薩と観音菩薩の数がほぼ拮抗している。

◎厄除、盜難の話は、観音菩薩の靈驗譚が多い。

地藏菩薩と観音菩薩、双方の靈驗譚が収録されている靈驗記として、浄土宗僧連盛が編纂し宝永八年（一七一二）に刊行された『善悪因果集』などが存在する。また、観音菩薩の靈驗譚のみを収録した靈驗記は、真言宗智山派僧如実が編纂し寛延二年（一七四九）に刊行された『準提菩薩念誦靈驗記』などが存在する。これらの靈驗記に収録されている地藏菩薩と観音菩薩それぞれの靈驗譚の対比、あるいはその他の仏菩薩との靈驗譚との対比を通して、地藏菩薩の靈驗譚および地藏菩薩への信仰形態の特徴をより明らかにしていきたい。

これらについては、今後の研究課題としていきたい。